

# 令和2年国勢調査速報、 統計ニュース

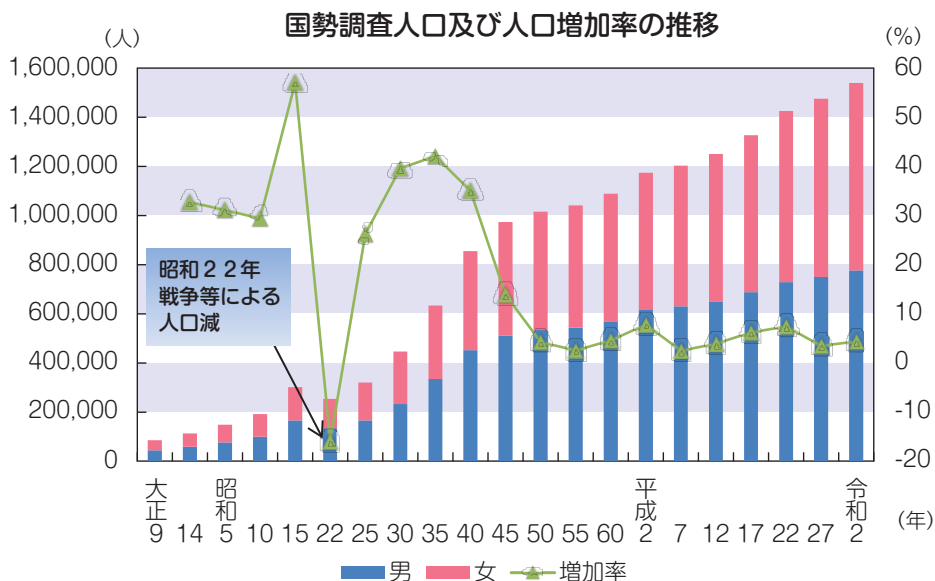
「令和2年国勢調査結果（人口速報）」と川崎市の人口に関する統計の最新状況をまとめたニュースを、表やグラフを用いて、分かりやすくまとめました。

※ 令和2年国勢調査結果（人口速報）は、令和3年6月に総務省から公表された、令和2年国勢調査（令和2年10月1日現在）の「人口速報集計結果」を基に川崎市に関する調査結果を分析・集計したものです。後日、総務省から公表される確定値と数値が相違することがあります。



# 令和2年国勢調査結果(速報)について

## ●川崎市の人口の推移



## ●平成以降の人口推移

(各年10月1日現在)

年次	世帯数	人口			増加数	増加率(%)
		総数	男	女	前回調査からの比較	前回調査からの比較
平成2年	466,084	1,173,603	617,425	556,178	84,979	7.8%
7年	503,711	1,202,820	629,804	573,016	29,217	2.5%
12年	543,088	1,249,905	649,997	599,908	47,085	3.9%
17年	595,513	1,327,011	687,080	639,931	77,106	6.2%
22年	662,694	1,425,512	728,525	696,987	98,501	7.4%
27年	691,837	1,475,213	749,038	726,175	49,701	3.5%
令和2年	746,866	1,539,081	775,849	763,232	63,868	4.3%

\*大正9年から平成7年までの人口は、現在の市域(144.35K㎡:本市公表値)の人口に組みかえている。

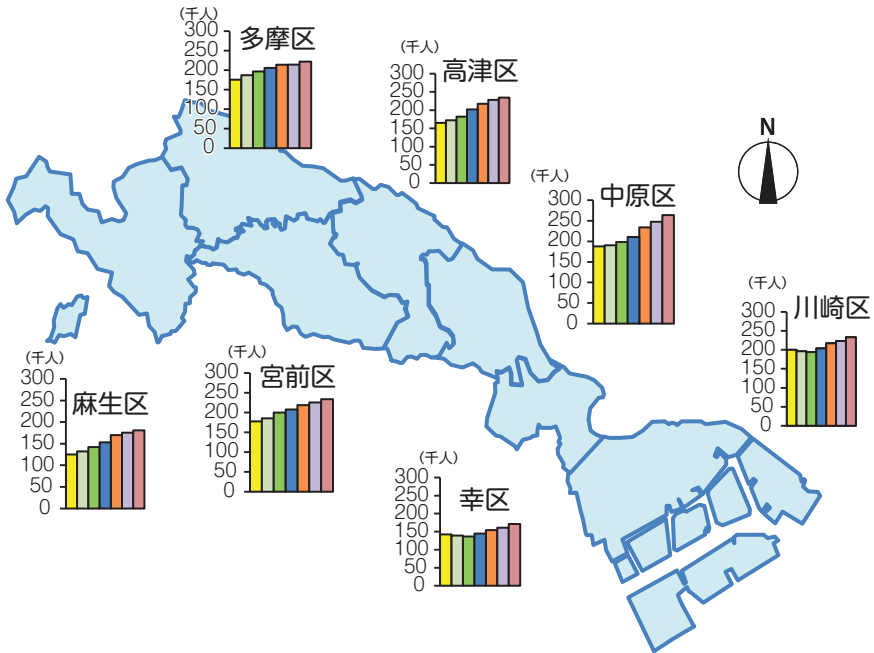
### データチェック

令和2年国勢調査結果の速報値によると、令和2年10月1日現在の川崎市の総人口は153万9,081人で、前回調査(平成27年)と比べて6万3,868人増加しました。

また、人口増加率は、前回調査(平成27年)を0.8ポイント上回り、4.3%となりました。

## ●区別人口

区別	世帯数	令和2年人口			平成27年人口	増加数 平成27～ 令和2年	増加率 (%) 平成27～ 令和2年
		総数	男	女			
川崎区	123,599	233,228	125,182	108,046	223,378	9,850	4.4%
幸区	79,953	171,188	86,703	84,485	160,890	10,298	6.4%
中原区	134,751	263,785	133,902	129,883	247,529	16,256	6.6%
高津区	113,652	234,342	116,321	118,021	228,141	6,201	2.7%
宮前区	102,235	233,796	113,359	120,437	225,594	8,202	3.6%
多摩区	113,324	221,853	112,909	108,944	214,158	7,695	3.6%
麻生区	79,352	180,889	87,473	93,416	175,523	5,366	3.1%



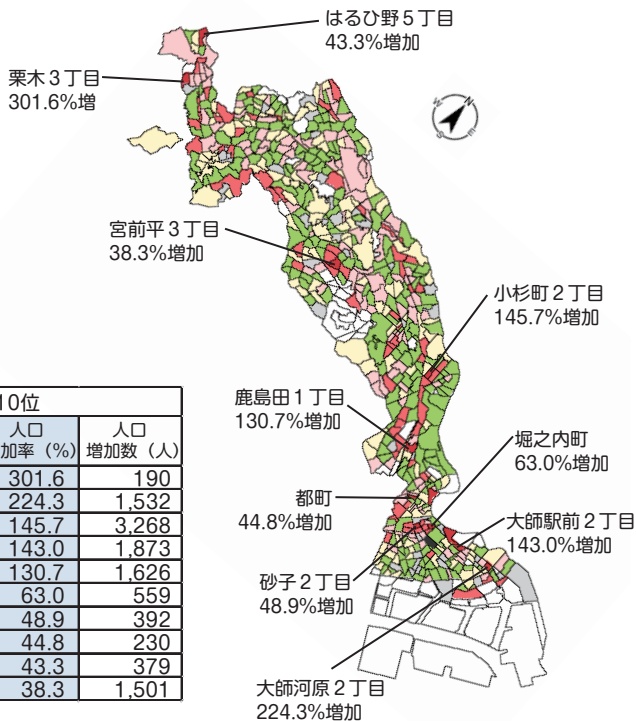
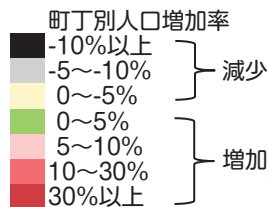
■平成2年 
 ■平成7年 
 ■平成12年 
 ■平成17年 
 ■平成22年 
 ■平成27年 
 ■令和2年

### データチェック

区別の人口をみると、前回調査(平成27年)に比べて全ての区で人口が増加しており、中原区が最も多く、次いで高津区、宮前区の順になっています。

また、人口増加数及び人口増加率をみると、最大が中原区となり、次いで幸区、川崎区の順になっています。

## ●地図でみる町丁別人口増加率



人口増加率 上位10位				
順位	区	町丁名	人口増加率 (%)	人口増加数 (人)
1位	麻生区	栗木3丁目	301.6	190
2位	川崎区	大師河原2丁目	224.3	1,532
3位	中原区	小杉町2丁目	145.7	3,268
4位	川崎区	大師駅前2丁目	143.0	1,873
5位	幸区	鹿島田1丁目	130.7	1,626
6位	川崎区	堀之内町	63.0	559
7位	川崎区	砂子2丁目	48.9	392
8位	幸区	都町	44.8	230
9位	麻生区	はるひ野5丁目	43.3	379
10位	宮前区	宮前平3丁目	38.3	1,501

\* (1) 50世帯以上の町丁を集計。

\* (2) 平成27年10月1日以降に住居表示が実施された区域及び秘匿対象区域については、増加率の計算ができないため色付けしていない。

### データチェック

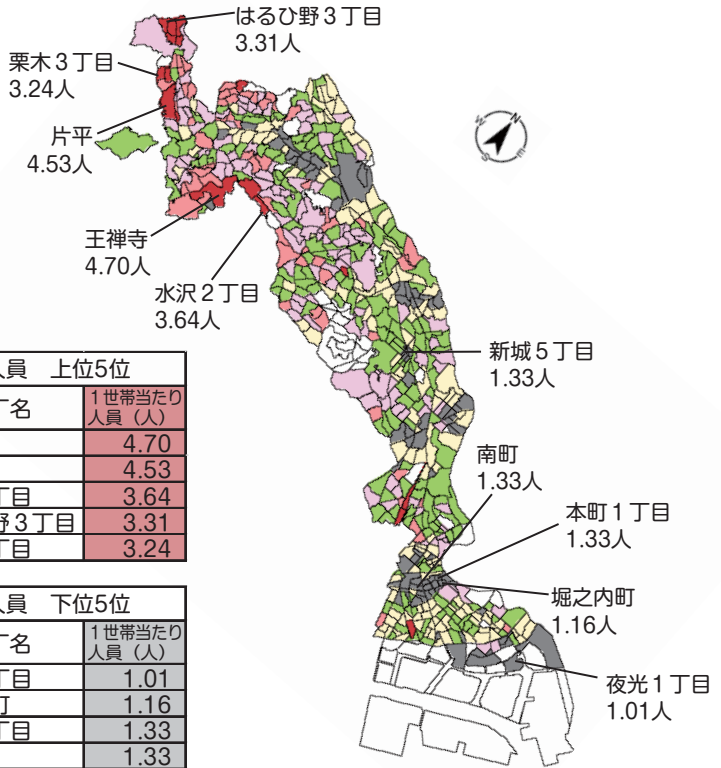
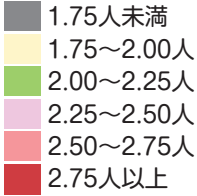
人口増加率(前回の平成27年国勢調査以降5年間)を町丁別に色分けしました。

人口増加率上位10位までの町丁をみると、川崎区が最も多く4町丁、次いで幸区と麻生区が2町丁となっており、大規模マンション・住宅建設が進んだ町丁や、鉄道駅周辺の町丁での人口増加が目立ちます。

なお、第3位の中原区小杉町2丁目は、市内全町丁で人口増加数が最も多い町丁となっています。

## ●地図でみる町丁別1世帯当たり人員

### 町丁別1世帯当たり人員



順位	区	町丁名	1世帯当たり人員(人)
1位	麻生区	王禅寺	4.70
2位	麻生区	片平	4.53
3位	宮前区	水沢2丁目	3.64
4位	麻生区	はるひ野3丁目	3.31
5位	麻生区	栗木3丁目	3.24

順位	区	町丁名	1世帯当たり人員(人)
1位	川崎区	夜光1丁目	1.01
2位	川崎区	堀之内町	1.16
3位	中原区	新城5丁目	1.33
4位	川崎区	南町	1.33
5位	川崎区	本町1丁目	1.33

\*50世帯以上の町丁を集計。

### データチェック

令和2年国勢調査の速報結果について、1世帯当たり人員を町丁別に色分けしました。北部には1世帯当たり人員の多い町丁が多くあり、南部には少ない町丁が多くなっていることが分かります。

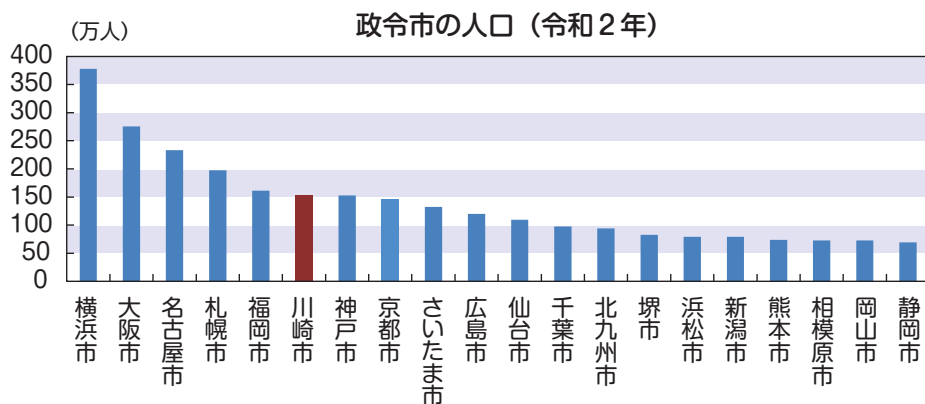
## ●政令市の人口、人口増加数、人口増加率

順位	政令指定都市	人 口		増加数	増加率(%)
		令和2年	平成27年	平成27～令和2年	平成27～令和2年
1	横浜市	3,778,318	3,724,844	53,474	1.4
2	大阪市	2,754,742	2,691,185	63,557	2.4
3	名古屋市	2,333,406	2,295,638	37,768	1.6
4	札幌市	1,975,065	1,952,356	22,709	1.2
5	福岡市	1,613,361	1,538,681	74,680	4.9
6	川崎市	1,539,081	1,475,213	63,868	4.3
7	神戸市	1,527,022	1,537,272	▲ 10,250	▲ 0.7
8	京都市	1,464,890	1,475,183	▲ 10,293	▲ 0.7
9	さいたま市	1,324,591	1,263,979	60,612	4.8
10	広島市	1,201,281	1,194,034	7,247	0.6
11	仙台市	1,097,196	1,082,159	15,037	1.4
12	千葉市	975,210	971,882	3,328	0.3
13	北九州市	939,622	961,286	▲ 21,664	▲ 2.3
14	堺市	826,447	839,310	▲ 12,863	▲ 1.5
15	浜松市	791,155	797,980	▲ 6,825	▲ 0.9
16	新潟市	789,715	810,157	▲ 20,442	▲ 2.5
17	熊本市	738,744	740,822	▲ 2,078	▲ 0.3
18	相模原市	725,302	720,779	4,523	0.6
19	岡山市	725,108	719,474	5,634	0.8
20	静岡市	693,759	704,989	▲ 11,230	▲ 1.6

\*順位は令和2年の人口による。

\*令和2年の人口は令和2年国勢調査速報値による。

\*平成27年の人口は、令和2年10月1日現在の市区町村の境域に基づいて組み替えている。

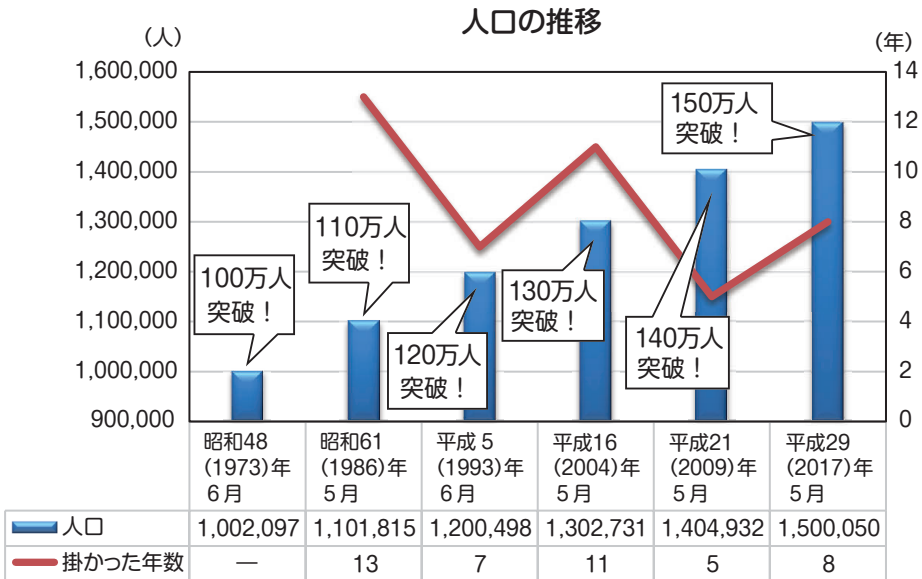


### データチェック

政令指定都市20市と比較すると、川崎市の人口は6位となっています。また、前回調査(平成27年)からの人口増加数は2位、人口増加率は3位という結果になっています。

## 前回調査（平成27年）以降に起こった統計ニュース

### ① 平成29（2017）年5月に川崎市の人口は150万人を突破



### 150万人以降の人口推移

	人口	年月	掛かった月数
151万人突破	1,513,757	平成30(2018)年 5月	12
152万人突破	1,522,241	平成31(2019)年 4月	11
153万人突破	1,530,457	令和元(2019)年10月	6
154万人突破	1,541,874	令和3(2021)年 5月	19

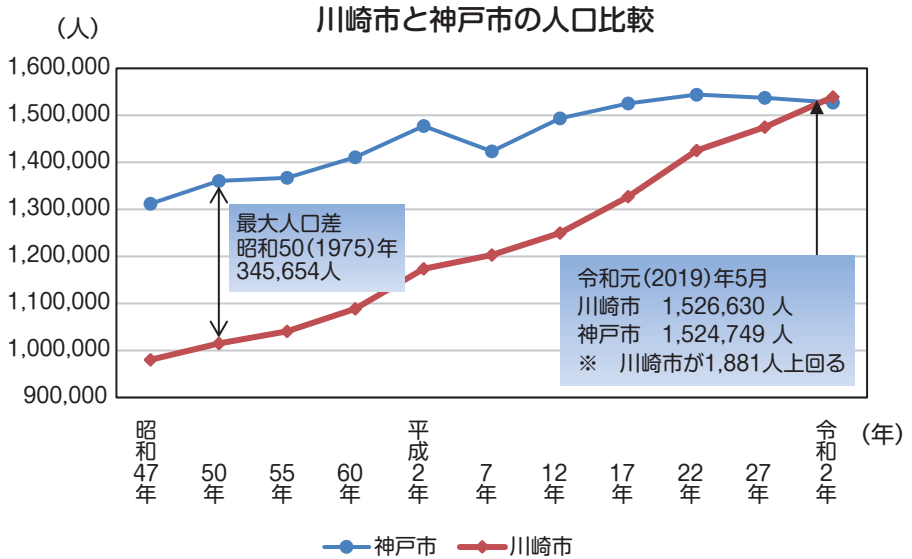
\* 令和3(2021)年5月の人口は令和2年国勢調査速報値による推計人口である。

### データチェック

川崎市は大正13年に人口約5万人でスタートし、政令指定都市に移行した翌年の昭和48年6月に100万人を超えました。昭和61年に110万人、平成5年に120万人、平成16年に130万人、平成21年に140万人と人口増加が続き、平成29年4月に150万人を突破しました。

その後も、平成30年に151万人、平成31年に152万人、令和元年に153万人、そして令和3年には154万人を突破しています。

## ② 令和元（2019）年5月に神戸市の人口を上回る



## 川崎市と神戸市の人口比較表

（各年10月1日現在）

	昭和47年	平成7年	平成22年	平成27年	令和2年
川崎市	980,280	1,202,820	1,425,512	1,475,213	1,539,081
神戸市	1,312,165	1,423,792	1,544,200	1,537,272	1,527,022
人口差	▲ 331,885	▲ 220,972	▲ 118,688	▲ 62,059	12,059

\* 昭和47年は4月1日の数値である。

\* 令和2年は令和2年国勢調査の速報値である。

### データチェック

本市が政令指定都市になった昭和47年4月1日の本市人口は980,280人、神戸市人口は1,312,165人で約33万人の差があり、最大の人口差があったのは昭和50年の34万5,654人でした。

その後、本市、神戸市ともに人口は増加傾向にありましたが、政令指定都市へ移行してから47年が経過した令和元年5月1日に本市の人口は神戸市の人口を1,881人上回り、政令指定都市で6番目に人口の多い都市となりました。